



第149回研修会 「ふるきよきものの伝承」 (その24)

2017年7月21日(金)~23日(日)

失われつつある
日本の精神文化を求めて



福澤諭吉記念館にて

偉人のふるさとを訪ねて(北九州編)

教育者 福澤諭吉と その弟子 松永安左エ門

今回は、啓蒙思想家、教育者として知られた福澤諭吉が1歳から19歳までを過ごした大分県中津市と、その弟子で「電力の鬼」といわれた松永安左エ門のふるさと、長崎県壱岐市を訪れました。

福澤諭吉が青年期を過ごした家(享和3年築)と土蔵が残されています。隣接する記念館では、「天は人の上に人を造らず……」の書き出しで有名な「学問のすすめ」や「西洋事情」などをはじめ、

福澤諭吉旧居・
福澤記念館



山国川対岸より競秀峰を望む

北九州空港で青空に迎えられた一行は、貸切バスで一路、大分県中津市へ。大分を代表する景勝地である耶馬溪の青の洞門と競秀峰を訪れました。競秀峰は福澤諭吉が自然保護のために私財を投じたナショナルトラスト第一号の地とされています。昼食後、福澤諭吉旧居・福澤記念館と中津城を見学しました。

黒田孝高(如水)が豊臣秀吉の命令により九州を平定し、中津16万石を拝領して、天正16年に築



模擬天守と復興櫓

中津城



福澤諭吉旧居を見学する参加者

遺品・遺墨、書簡などが展示・保管されています。



足利尊氏と直義が全国に建立した安国寺の一つ。元弘の乱以来の戦死者の冥福を弔うためにもともとあった海印寺を安国寺にした

きました。地形が南方に扇状になっていいため、扇城という別名があります。海を臨む日本三大水城の一つで、当時のままの内堀は海に通じ、潮の干満で水位が変わります。

2日目は博多港からジェットボイルに乗船し、壱岐島へ。福沢諭吉の「学問のすすめ」に感銘を受け、慶応義塾に入学した松永安左エ門のふるさとです。「電力の鬼」と呼ばれ、電力の国有化に反対し、電気事業の分割民営化を成し遂げた立役者です。民間の自由競争による電力の供給にこだわりました。壱岐島では、一支国博物館、原の辻王都一支国復元公園、安国寺そして、松永安左エ門記念館などを訪問しました。夜、希望者はそろそろ歩きながら、屋台をのぞいたり、郷ノ浦祇園山笠祭りを見て歩き、雰囲気を楽しむました。

一支国博物館

壹岐島の歴史は古く、「古事記」には、5番目にできた日本の国土「伊伎島」として、また「魏志倭人伝」には「一支国」として記載されています。「一支国」は大陸や朝鮮半島と日本本土を結ぶ架け橋として重要な役割を果たしていました。島内には「一支国」の王都があった国指定特別史跡の原の辻遺跡（弥生時代）や壹岐古墳群（古墳時代）など、480カ所の遺跡がありますが、この



曲面の屋根が特徴の
一支国博物館

博物館では、発掘された出土品が天井まで届く陳列棚に展示され、ガラス越しに見学することができます。また、日本や東アジアの歴史を踏まえながら、壹岐の通史をビューシアターで学ぶことができます。建物は故黒川紀章の遺作で、緑化された屋根など、見応えがあります。



ボランティアガイドから説明を受ける一行



原の辻王都一支国復元公園から
一支国博物館を望む

電力の鬼・ 松永安左エ門記念館

少年期を壹岐で過ごした松永安左エ門の功績を後世に伝える展示施設です。安左エ門は戦後、民間初のシンクタンク電力中央研究所を設立、さらに政・財・学・官界のトップで構成する「産業計画会議」を主催。専売公社の廃止、国鉄の民営化、高速道路の整備など、日本の近代化を推し進める提言を行いました。安左エ門は96歳で亡くなるまで、電気事業の世界にとどまらず、経済界、産業界に影響を与え、近代日本の発展をリードし



管理人 定村さんより安左エ門の功績を学ぶ

続けました。敷地内には生家があり、安左エ門が設立した福博電気軌道の車両が展示されています。

自然豊かな壹岐島

壹岐島には猿の姿にそっくりの「猿岩」や、壹岐島誕生神話の八本の柱の一つとされている「左京鼻」などの奇岩や、鬼の足跡と呼ばれる周囲110mの大穴など、ダイナミックな自然の風景を楽しむことができます。



島で最も高い岳ノ辻展望台から対馬や佐賀を望むことができます

郷ノ浦祇園山笠祭り

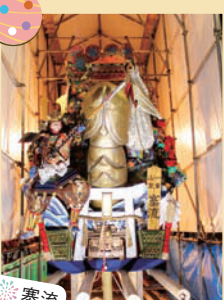
一行が壹岐島に滞在した7月22日、23日は、郷ノ浦祇園山笠祭りが開催されました。270年以上の歴史を誇る八坂神社のお祭り、当初は疫病退散の祈願のために始められましたが、時代とともに五穀豊穡、商売繁盛、大漁祈願、家内安全とさまざまな願いが込められるようになりました。



本町流



新道流



寒流